



すぎさん

<http://www.suginami-school.ed.jp/sugi3shou/>

令和4年 5月号
杉並区立杉並第三小学校
〒166-0003 杉並区高円寺南1-15-13
TEL 03-3314-1564
FAX 03-3314-1449

「先生、どうか皆の前でほめないで下さい」

校長 森賀 慎一

令和4年度がスタートして、一か月が過ぎました。子どもたちの様子を観ていると、どの子も新しい先生・友達との出会いに心機一転前向きな気持ちで取り組んでいるようです。特に学校の顔である6年生は、最高学年としての自覚が表れているようで、顔つきがちょっと変わってきたなと感じています。

さて、表題のショッキングなタイトルですが、待ち合わせの時間まで暇つぶしに入った書店で、私の目に飛び込んできた本のタイトルでした。私は若い時から、「子どもを叱るときは個別に、ほめるときはみんなの前で」と先輩から教えられてきました。それはおおむね正しいのではないかと実感してきたので、本のタイトルを見て「え～そうなの？」と思わず購入したのでした。

よくよく読んでみると、著者の金間大介さんは大学の先生で、副題には「いい子症候群の若者たち」とありました。大学生から20代半ばくらいまでを対象に研究された内容でしたので、小学生とはあまり関係ないかなと思いましたが、冷静に考えてみると小学校を卒業してから大学生になるまで6年間しかないことを考えると、ここに書かれている内容について、小学校での教育も影響しているのではないかと思います。

とくに大学時代を終えてしまった私が興味深かった事例がいくつもありました。1つは、大学の授業で一番嫌な授業は…いくつかの選択肢のある中での1位は、「当てられる授業」でした。何よりも目立たないことが大事のようで、つまり表題の「皆の前でほめないで」も目立つことを嫌う若者の特徴だったのです。この目立つことを嫌う原因を著者は「自分に自信がないこと」と考えています。またこの「いい子症候群」の若者たちは、自分で決めるのもとても苦手ということでした。今の若者が、自信がなかったり自分で決めるのが苦手だったりすることに対して、その原因は小学校時代の教育にも一因があるのかもしれない

ないと考えました。

自分に自信がある子と言っても、いつも自信満々で自分のすることが基本正しいと考え、常に仲間のリーダーとして全体を引っ張る…なんて子どもはそうはいません。大人でも中々いけませんよね。でも自分のことを好きでいたり、苦手なことでも努力をすればなんとかできるくらいには思っていたりしてほしいなと思います。また極端に目立つのは嫌でも、グループの代表として役割を果たせるようにはなってほしいなと思っています。そして自分に関わることについては、自分で決められる人であってほしいなと感じています。

杉三小では、日々の各教科等の授業の中で、課題を自分で見つけたり選んだりして自分で決める場面をできるだけ多く設定しています。また子どもたちが異年齢集団の中で、上の学年が中心になってみんなの意見を引き出したりまとめたりしながら、集団の納得解を導き出す経験を意図的に増やしています。生活科や総合的な学習の時間、縦割り清掃等の時間を活用して行われるそれらの活動の中で、下の学年は上の学年の姿を観ながら様々なことを学び、次年度の自分の行動に自然とつなげていきます。

このような体験活動を積み重ねていくことで、子どもたちの自分に対する自信は少しずつ醸成されていき、周りの目を気にすることよりも自分の考えを表現することの方を大事にする若者が育っていくのではないかと想像しました。

ただそんなに簡単なことでないことも肌感覚として理解していますので、保護者、地域、関係諸機関の皆様のお力をお借りしながら、一歩ずつ進めていきたいと考えています。そして、まずは私たち大人が失敗を恐れずチャレンジする姿を見せることで、杉三小の子どもたちを、将来「いい子症候群の若者」と呼ばれないように、心身共にたくましく育てていきたいと肝に銘じています。